

騒音・振動の技術支援

— 2018年度 —

加藤晶子 石橋雅之 上治純子 大橋英明

1 目的

騒音・振動の規制に関する事務は市町村が行っているが、測定機器の取扱い経験の無い職員が担当となることが少なくない。当センターでは、市町村職員の騒音振動測定技術の向上を目的として、大気保全課と協力し技術講習会を実施している。また、市町村等からの問い合わせに応じ、個別の事例に関して、測定・評価方法や機器の操作方法等の技術的助言を随時実施している。

2 騒音・振動測定技術講習会

知識や技術の内容によって、初級と中級の2コースに分けて行っている。講習会で学んだ技術を測定現場で活用できるよう、両コースとも実際に市町村で所有している機種を使用する。2018年度は、初級を5月30日から3日間、中級を6月6日から2日間の日程で行った。過去5年分の参加者数を表1に示した。

初級講習会では、初めて騒音振動業務に携わる職員を主な受講者として想定しており、騒音・振動に関する基礎的な講義の他、騒音計・振動レベル計の基本操作に関する実習を行った。

中級講習会は、初級講習会を受講済みで騒音振動業務を1年以上担当している等、ある程度経験を積んだ職員を主な受講者として想定しており、周波数分析や低周波音測定等、より高度な測定技術に関する実習を行った。

3 個別事例の技術支援

市町村は住民からの苦情の受付窓口となっており、日々対応が求められている。実際の苦情現場は机上の学習と異なり、様々な要因から測定上の制約を受ける等、複雑な環境にあることが多い。当センターでは、前項の講習会の他に、市町村から問い合わせがあった場合には、個別事例に対する技術支援を行っている。

2018年度中に市町村等へ行った技術支援は23件あり、その概要を表2に示した。相談の内容を騒音・振動・低周波音に分類すると、騒音が16件、振動が0件、低周波音が7件であった。発生源別では、件数の多い順に、空調設備を含む設備に関するものが6件、分別作業等の事業所内の活動に関するものが5件、自動車騒音が3件であった。技術支援の内容別では、測定器の使用方法を含めた測定方法に関する助言や、測定結果の評価に関する助言が多く、2つを合わせて14件であった。

4 まとめ

当センターでは、技術講習会のアンケートや市町村から受けた相談内容を整理し、技術支援が必要な苦情の傾向を把握するとともに、測定方法の最新の動向を捉え、技術講習会の内容に反映している。

表 1 騒音・振動技術講習会の参加者数

年度		2014	2015	2016	2017	2018	合計
参加者数	初級(人)	30	24	33	34	33	154
	中級(人)	6	9	8	8	8	39

表 2 個別事例に対する技術支援の概要(2018 年度)

No.	市町村等	公害の種類			発生源の種類	技術支援の内容
		騒音	振動	低周波音		
1	我孫子市			○	民家	測定方法
2	野田市			○	不明	測定方法, 機材貸出し
3	市川市	○			工場(スクラップ)	測定方法
4	成田市			○	不明	測定・評価方法, 機材貸出し
5	いすみ市			○	不明	測定方法, 機材貸出し
6	市原市			○	不明	機材貸出し
7	成田市	○			工場(スクラップ)	測定方法
8	野田市	○			室外機, 送風機	測定方法
9	市川市	○			自動車	測定・評価方法
10	県廃棄物指導課	○			自動車解体	測定方法
11	船橋市	○			航空機	暗騒音(夏季のセミ)の取扱い
12	県住宅課	○			自動車	測定方法
13	市川市	○			工場	測定の必要性
14	茂原市	○			自動車	高架道路の測定場所
15	我孫子市	○			刈払機	測定・評価方法
16	流山市			○	不明	測定方法, 機材貸出し
17	君津市	○			工場	機材の設定
18	富津市	○			工場(スクラップ)	機材の設定
19	我孫子市	○			室外機	防音の方法
20	浦安市	○			室外機	騒音の予測計算
21	市原市	○			送風機	騒音の予測計算
22	我孫子市	○			室外機	測定方法
23	市原市			○	室外機	評価方法

※同様の内容で複数回の問い合わせがあったものは、1件として集計した。